

## 第6回加賀ふるさと検定(初級問題) 解答及び解説

- 1 江戸時代後期から戦後まで、私達の衣服の原料はほとんど（ ）中心だった。  
①わら ②麻 ③ナイロン ④木綿

正解は④です (正解率73.5%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』20頁

日本人の衣服は、戦後、和服から洋服に大きく変化しました。衣服の原料も時代によって変わってきました。古くは麻が多く用いられましたが、江戸後期からは木綿が中心となりました。戦後はナイロン等の化学繊維が多く使用されるようになりました。

- 2 ぶり大根といえは、旬のぶりと大根と一緒に（ ）加賀の代表的な郷土料理である。  
①あえる ②漬物にする ③煮付ける ④麴漬けにする

正解は③です (正解率86.5%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』30頁

北陸では、晩秋から初冬に掛けておこる寒い大荒れの日を「ぶりおこし」といい、これが終わるとブリの水揚げが本格化します。ぶり大根は、もともとはブリ漁が盛んでよく食される北陸の代表的な郷土料理ですが、近年は居酒屋等で全国的に目にするメニューとなっています。

- 3 人々は長い間、飲み水を得る方法として井戸に（ ）を使って水を汲み上げていた。  
①つるべ ②ポンプ ③水道 ④ひしゃく

正解は①です (正解率 88.6%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』25頁

古代より、人々は川水や湧き水を利用してきましたが、井戸を掘る技術が進んで、つるべを使って水を汲み上げるようになりました。その後、ポンプを使って井戸水を汲み上げる時代もありましたが、水道の普及によって、これらの井戸はほとんど使われなくなりました。

- 4 昔は町屋と農家では家の作りが大きく違っていた。加賀の農家では（ ）と呼ばれる大便所が家の外につくられていた。  
①うまや ②どうけ ③せんちゃ ④おもや

正解は③です (正解率67.6%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』26頁

町家と農家の作りは大きく異なっていました。間口が狭く奥域が長い、いわゆる「ウナギの寝床」は町家です。一方、母屋とから離れた別棟に「せんちゃ」と呼ばれる大便所を設けていたのが農家の特徴でした。「せんちゃ」は、雪隠(せっちん)から転化した方言だとされています。

- 5 大聖寺町の全町が参加して行われる桜まつりは、（ ）のお祭り行事である。  
①菅生石部神社 ②江沼神社 ③加賀神明宮 ④愛宕神社

正解は③です (正解率 66.5%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』27頁

「祭り」はもともと集落の神社の催事でしたが、近年は、観光やまちづくりを目的とした祭りも増えてきました。桜祭りは加賀神明宮の春祭りで、大聖寺のすべての町が参加します。氏子の家内安全等を祈りつつ、輪踊りや山車で盛り上がります。

- 6 氷河期においても温かい時代と寒い時代があった。加賀市の大聖寺川や動橋川の中流域付近では、こうした気候や地殻の変動によってできたと思われる（ ）が見られる。  
①独立丘陵 ②古期砂丘 ③扇状地 ④河岸段丘

正解は④です (正解率 70.3%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』8頁

河岸段丘(かがんだんきゅう)とは、河川の中・下流域に流路に沿って発達する階段状の地形のことです。およそ200万年前、4回の氷河期がありましたが、この氷河期とその間の暖かい時期である間氷期のくり返しによる気候変動や地殻変動などにより、何段もの河岸段丘が形成されたといわれています。

- 7 勝山市、小松市、加賀市にまたがる県境の山は（ ）と呼ばれて、高山植物がたくさん生え、ブナクラス域になっている。  
①富士写ヶ岳 ②大日山 ③白山 ④錦城山

正解は②です (正解率 61.1%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』17頁

加賀市で最も高い山は大日山で、その標高は1,368mあります。山頂部は福井県の勝山市と石川県の小松市、加賀市にまたがっています。加賀市の植生のほとんどは常緑広葉樹に覆われたヤブツバキクラス域ですが、大日山などの高い山は、人があまり立ち入らないブナクラス域となります。

- 8 ( )川は、加賀市の2大河川の一つだが、海に注がず柴山瀉に注いでいる。  
①大聖寺 ②尾俣 ③動橋 ④八日市

正解は③です (正解率 61.6%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』9頁

加賀市の2大河川といえば大聖寺川と動橋川で、いずれも源流は大日山です。大聖寺川は全長38kmあり、その河口は塩屋町から日本海に流れています。一方、動橋川は全長20kmでその河口は、中島町からの柴山瀉に注いでいます。

- 9 加賀市の海岸部は（ ）公園になっている。  
①県立 ②国立 ③市立 ④国定

正解は④です (正解率40.5%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』10頁

加賀市の地形は山から海岸にかけて景色の良いところが多く、変化に富んでいます。特に、山間部は、「山中・大日山県立自然公園」に、また、海岸部は、福井県敦賀市の海岸部、およそ100kmが、「越前加賀国定公園」に指定され、いずれも貴重な自然資源が多く残っています。

- 10 加賀市の山間部における（ ）川上流域はダムが出来て湖底に沈み、いくつもの山村が廃村となった。  
①大聖寺 ②動橋 ③熊坂 ④日谷

正解は①です (正解率60.5%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』11頁

大聖寺川は大きく蛇行していたために「あばれ川」といわれ、何度も氾濫しました。そのため、昭和40年に我谷ダムが、平成18年には九谷ダムがつけられました。こうしたダム開発のために、大聖寺川の上流域の我谷町や枯淵町、片谷町、生水町など、

多くの山村が湖底に沈み、廃村となりました。

- 11 6000年前の（ ）時代、今の海水面は2～3m位高かったと言われ、江沼平野の殆どは入江だった。
- ①旧石器 ②縄文 ③弥生 ④古墳

正解は②です (正解率 47.6%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』8頁

今からおよそ6000年前は縄文時代といえます。この時代、温暖期と寒冷期があり、海進と海退がありました。海進時には海面が今よりも2～3メートル上昇していたといわれています。江沼平野もこの時代は入り江や浅い海に覆われていたのです。その後海面は現在の高さまで低下し、かつての入り江は土や砂が堆積し沖積平野となったのです。

- 12 もともと加賀の山間部に住む動物であった（ ）やニホンカモシカは、人里に現れ餌を求めています。その大きな原因は焼畑がなくなったことや杉の植林だといわれている。
- ①アライグマ ②ニホンツキノワグマ ③馬 ④ハクビシン

正解は②です (正解率 82.7%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』13頁

もともと自然界の動物たちは、山間部と平野部で棲み分けして生活していましたが、焼き畑が行われなくなったことで、山と里の境界がなくなったことや、杉の植林面積が増えて、どんぐりなどが成るナラやクヌギが少なくなったことで、山の動物たちが餌を求めて里に下りてくるようになったといわれています。

- 13 小塩辻村の十村を務めた（ ）は、「農事遺書」を残した。
- ①堀野新四郎 ②鹿野小四郎 ③篠原藤平 ④橋本源左衛門

正解は②です (正解率 63.8%) 『学習帳産業人物編』30頁

吉崎村出身の鹿野小四郎は、もともと船乗りでしたが、兄弟2人を海難によって亡くしたことで農業に専念するようになりました。その後、小塩辻に移り住んで十村を勤めていましたが、農業の知識に大変詳しく、子孫のために「農事遺書」全5巻を書き残しました。

- 14 加賀市出身の国会議員（ ）は三木出身で農林大臣になり、戦後の食糧政策に貢献した。
- ①稲坂謙吉 ②大塚志良 ③桂田富士郎 ④坂田英一

正解は④です (正解率 85.4%) 『学習帳産業人物編』34頁

江沼郡三木村出身の衆議院議員、坂田英一は、昭和40年の第一次佐藤内閣のときに農林大臣となりました。この時代、日本はまだ食糧難の時代が続いていました。坂田は、灌漑・干拓事業などを行ない、農地を増やすなど、特に食糧増産政策に力を注ぎました。

- 15 大聖寺藩は、藩祖前田利治から14代（ ）まで230年間にわたって前田家により支配された。
- ①前田利鬯 ②前田利直 ③前田利之 ④前田利明

正解は①です (正解率 87.6%) 『学習帳歴史編改訂版』34頁 『学習帳産業人物編』45頁

寛永16年(1639年)、加賀藩の第3代藩主前田利常が隠居する際、次男の利次に富山10万石を、三男の利治に大聖寺7万石を割いて、富山藩と大聖寺藩が新たにつくられました。その後230年間にわたって前田家による支配が続きました。なお、明治維新を迎えたときの最後の藩主、14代前田利愷も、加賀藩13代斉泰の子にあたる人でした。

- 16 加賀市の( )からは県内最古とされる尖底楕円押型文土器が発掘されたが、この土器は縄文時代始め頃のものとして推定されている。
- ①美崎千崎遺跡 ②新保遺跡 ③橋立大野山遺跡 ④新堀川遺跡

正解は③です (正解率 71.9%) 『学習帳歴史編改訂版』8頁

橋立大野山遺跡は旧石器時代から縄文時代への転換期における市内では数少ない遺跡の一つで、出土した斧形石器や槍先形尖頭器がその時代性をよく示しています。

- 17 ( )からは、4戸の石囲い炉跡のある住居跡や三角壻形土製品が確認されている。
- ①柴山貝塚 ②額見貝塚 ③横北遺跡 ④打越遺跡

正解は①です (正解率 58.4%) 『学習帳歴史編改訂版』9頁

柴山貝塚は、柴山町北方の洪積台地にある縄文中期の遺跡で、昭和38年の発掘調査により竪穴式住居8戸が発見され、そのうち4戸は石囲いの炉跡をもつものであることが確認されました。

- 18 藤の木遺跡からは、縄文時代中期の土器が多数発見されるとともに、信濃和田峠産の( )で作られた石刃も出土しており、縄文交易の広がりを示している。
- ①サヌカイト ②翡翠 ③流紋岩 ④黒曜石

正解は④です (正解率 73.5%) 『学習帳歴史改訂版』9頁

藤ノ木遺跡から出土した黒曜石製石刃は、火成岩の一つで緻密なガラス質です。割れると貝殻状の断面が残るので、旧石器時代から縄文時代まで石器の材料として用いられました。原産地により石質が異なり、産地も限られているので、その分布は交通交易等を知る手掛かりとなっています。

- 19 大聖寺藩第9代藩主、前田利之は、これまでの実質( )を幕府に願い出て10万石の高直しをおこなった。
- ①一万石 ②四万石 ③五万石 ④七万石

正解は④です (正解率 84.3%) 『学習帳歴史改訂版』39頁

9代藩主利之(としこれ)は、文政4年、宗家加賀藩の支援を得て、幕府に7万石から10万石への高直しを願い出て成功しましたが、この高直しは、江戸城の大広間詰めの大名中10万石以下は大聖寺藩だけで、こうしたことを苦にした対面上のものだったといえます。この格式の昇進に従って出費も増え、藩財政がより厳しいものとなりました。

- 20 黒瀬・南郷古墳群のうち、吸坂A3号墳は全長( )mを越す市内最大の前方後方墳で、この古墳は江沼郡全体を支配した豪族の墳墓と推察されている。
- ① 30 ② 60 ③ 100 ④ 200

正解は②です (正解率 56.8%) 『学習帳歴史改訂版』11頁



南郷町から吸坂町、上河崎町にかけての丘陵地に約85基の古墳が密集し、黒瀬・南郷古墳群と呼ばれています。そのうち吸坂丸山支群に含まれる吸坂A3号墳は全長60mあり、市内最大の前方後方墳となっています。また、吸坂イカリ山13号墳は全長70mを越す市内最大の前方後円墳です。これらの古墳は、大聖寺川水系を支配し、江沼郡全体の首長であった豪族の墳墓だと考えられています。

- 21 平安時代、当地域の柏野寺・温泉寺・極楽寺・小野坂寺・（ ）の5つの寺院が白山五院と呼ばれ、白山信仰の拠点地となっていた。  
①那谷寺 ②吸坂寺 ③作見寺 ④大聖寺

正解は④です (正解率 74.6%) 『学習帳歴史改訂版』15頁

平安時代に入ると仏教がますます盛んになり、古来よりの白山信仰が、仏教思想と結びつきました。当地域では、柏野寺、温泉寺、極楽寺、小野坂寺、大聖寺の5つの寺院が「白山五院」と呼ばれ、白山信仰の拠点地として建立されたことが平安後期の書『白山之記』に記載されています。大聖寺は現在の錦城山から荻生町にかけての山の上にあった寺院と考えられています。

- 22 文明3年、本願寺8世（ ）は、加賀・越前の国境である吉崎に道場を開いた。  
①親鸞 ②蓮如 ③法然 ④一休

正解は②です (正解率 92.4%) 『学習帳歴史改訂版』23頁 『学習帳産業人物編』51頁

文明3年(1471)7月、本願寺8世蓮如が加賀・越前の国境、吉崎に道場を開きました。当時、蓮如は比叡山延暦寺衆徒に追われ、近江(滋賀県)を転々としていましたが、ついには北陸まで避難するかたちで、吉崎に拠点を設けました。

- 23 山代温泉の薬王院温泉寺の僧（ ）は、天台宗の延暦寺で学び、後に「あいうえお五十音図」を考案したとされる。  
①空海 ②最澄 ③明覚 ④延昌

正解は③です (正解率 88.1%) 『学習帳自然民俗文化財編改訂版』41頁 『学習帳産業人物編』48頁

明覚は平安時代中期の天台宗の学僧で山代温泉薬王院の住職を務めた人物とされています。比叡山延暦寺に入って天台宗の教義や悉曇学(しったんがく)を修学し、のちに、「あいうえお五十音図配列」を考案した一人とされています。「悉曇大底」や「反音作法」などの多くの著書を著しました。薬王院背後に建つ五輪塔(国指定重要文化財)は鎌倉時代のもので、明覚上人の供養塔だといわれています。

- 24 建武3年(1336)、建武政権が崩壊し、反尊氏派の新田義貞が越前に入ると、義貞派の（ ）が狩野一党を味方に入れ、越前の細呂木に堡壘を構えて、大聖寺城に立て籠もる津葉清文を攻め落としました。  
①畑時能 ②斯波高経 ③富樫高家 ④脇屋義助

正解は①です (正解率 33.5%) 『学習帳歴史改訂版』20頁

建武3年、建武政権が崩壊の後、反足利尊氏派の新田義貞が越前に入ると、狩野一党は新田勢に同調し、義貞派の畑六郎左衛門尉時能と組んで、大聖寺城の津葉清文を攻め落とし、越前守護の斯波高経や加賀守護の富樫高家等と対立しました。

- 25 文明年間頃、蓮如の四男蓮誓は、当地（ ）の光教寺に拠点を置いて勢力を築いた。  
①山田村 ②富塚村 ③作見村 ④尾中村

正解は①です (正解率 69.7%) 『学習帳歴史改訂版』25 頁

山田光教寺は、文明年間に吉崎御坊を拠点としていた蓮如によって開かれ、文明18年頃に蓮如の四男蓮誓が入寺しました。波佐谷松岡寺・若松本泉寺とともに、加州三ヶ寺と云われ、加賀一向一揆の拠点寺院でした。享禄4年の「享禄の錯乱」で越前超勝寺方に攻められ、破れた蓮誓の子顕誓は越前へ逃れ、寺は廃寺となりました。

26 本願寺派が加賀に勢力を伸ばすのを打破しようとする富樫幸千代に対し、越前に亡命していた( )が本願寺派と結び、文明6年(1474)越前から加賀に打ち入り、幸千代の能美郡蓮台寺城を陥れて守護職を奪還した。

- ①赤松政則      ②富樫成春      ③富樫政親      ④朝倉孝景

正解は③です (正解率 36.8%) 『学習帳歴史改訂版』23 頁

蓮如が吉崎進出した頃は、加賀では守護職をめぐる富樫家兄弟が抗争しており、当初は西軍の弟幸千代が優勢で、東軍の兄政親は京都に逃げていました。文明3年、北陸の情勢が東軍有利となると、政親は加賀へ戻りましたが、幸千代の反撃にあい、文明5年、越前に亡命しました。本願寺派の隆盛を恐れた幸千代側が吉崎を攻撃しようとしたので、蓮如の再三の制止にもかかわらず本願寺派は政親と組んで、加賀に打ち入り、幸千代の能美郡蓮台寺城を陥れました。

27 天台宗の僧( )は江沼郡出身と伝えられているが、天台宗の最高位である座主や僧正の位まで昇りつめ、その事績をもとに謡曲「敷地物狂」や「ゆみつぎ」が創作された。

- ①最澄      ②円珍      ③延昌      ④円仁

正解は③です (正解率 64.9%) 『学習帳産業人物編』27 頁

第15代天台座主延昌は、各種の僧伝で江沼郡出身と伝えられ、幼くして比叡山で仏教を学び、僧正の位にまで昇りつめました。朱雀・村上両天皇の護持僧として厚く信任され、最期は極楽往生を願い、阿弥陀仏の手と自分の指を糸で結ぶ典型的な「糸引き往生」をとげました。

28 藤丸新介は天正5年(1577)、越後の上杉景勝に仕え、魚津城の攻防戦で織田方の( )に攻められ自刃したと云われる。

- ①柴田勝家      ②豊臣秀吉      ③明智光秀      ④徳川家康

正解は①です (正解率 56.2%) 『学習帳産業人物編』44 頁

藤丸新介は、江沼郡赤尾を拠点とする一向一揆の大將。天文24年、越前の朝倉宗滴の江沼郡侵攻の時、南郷城を守備し、敗れた後、赤尾を捨て横北に逃れたと伝えられています。その後、一向一揆方と組んだ上杉景勝に仕え、魚津城の守備につきましたが、織田方の柴田勝家に攻められて自刃したと云われています。

29 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長3年(1598)4月に越前北庄城主堀秀治の越後(新潟県)春日山への移動に伴い、同国( )へ移動した。

- ①村上      ②新発田      ③高田      ④長岡

正解は②です (正解率 90.3%) 『学習帳歴史改訂版』30 頁

越前北庄城主堀秀治(丹羽長秀の後任、堀秀政の子)は、慶長3年4月に豊臣秀吉の命により越後(新潟県)春日山へ移動

されました。この移動に伴い、堀秀治と与力関係にあった大聖寺城主溝口秀勝は同新発田に、小松城主村上頼勝は同本庄（現村上市）にそれぞれ移動しました。この移動は同年正月の越後春日山城主上杉景勝の会津（福島県）移封に伴うものでした。

30 飯田屋八郎右衛門は宮本屋窯の画工で（ ）細描九谷の大成者。その門下に竹内吟秋・浅井一毫がいる。

- ①青手 ②五彩手 ③彩色金襴手 ④赤絵

正解は④です（正解率 50.3%） 『学習帳産業人物編』 23 頁

宮本屋窯は吉田屋から窯を譲り受けたもので、吉田屋の分業形態とっていたと思われませんが、詳細は分かっていません。ただ木越八兵衛が素地主任、大聖寺の旧家出身の飯田屋八郎右衛門が絵付主任となっていたようです。作品は吉田屋窯の塗埋手から、赤と金彩による細密な「赤絵金襴手」に特色があり、「八郎手」、或いは「飯田屋」と呼ばれています。

31 山口玄蕃宗永は、慶長 3 年（1598）に大聖寺城主として江沼郡（ ）を支配した。玄蕃宗永は山城国（京都府）の出身で、茶の湯や能楽に通じる当時の文化人であった。

- ① 4 万石 ② 5 万石 ③ 6 万石 ④ 7 万石

正解は④です（正解率 47.0%） 『学習帳歴史改訂版』 30 頁 『学習帳産業人物編』 50 頁

筑前・筑後（福岡県）の領主小早川秀秋の筆頭家老山口玄蕃宗永は、慶長 3 年（1598）に大聖寺城主として江沼郡 7 万石を支配しました。玄蕃宗永は山城国（京都府）の出身で、茶の湯や能楽に通じる当時の文化人であり、慶長 5 年（1600）の大聖寺合戦で金沢城主前田利長の大軍に攻められ、8 月 3 日に長男修弘とともに自決しました。

32 加賀藩主 3 代前田利常は、寛永 2 年（1625）に郡奉行吉田伊織の家来久世徳左衛門に命じ、別所村領の大聖寺川から水を取り入れて山代新村に至る（ ）用水を完成させた。

- ①矢田野 ②市之瀬 ③御水道 ④鹿ヶ鼻

正解は②です（正解率 67.0%） 『学習帳歴史改訂版』 31 頁

加賀藩主 3 代前田利常は、寛永 2 年（1625）に郡奉行吉田伊織の家来久世徳左衛門に命じ、別所村領の大聖寺川から水を取り入れて山代新村に至る市之瀬用水を完成させました。同 6 年には山代神明宮（のち市之瀬用水）を鎮守とし、社地を寄進するとともに徳左衛門を神官に任命しました。その後、市之瀬用水は大聖寺藩主 2 代前田利明により寛文 5 年（1665）に動橋川まで延長されました。

33 大聖寺藩祖前田利治は、寛永 16 年（1639）に筆頭家老玉井市正をはじめ、家老神谷内膳や織田左近などを含め家臣（ ）を従えて大聖寺へ入部した。

- ①106 人 ②223 人 ③278 人 ④328 人

正解は①です（正解率 8.1%） 『学習帳歴史改訂版』 33 頁

大聖寺藩祖前田利治は、寛永 16 年（1639）に筆頭家老玉井市正貞直をはじめ、家臣 106 人を従えて大聖寺へ入部しました。承応 2 年（1653）には、藩財政の不足から筆頭家老を含む家臣 24 人を加賀藩へ返還しました。なお、家臣数は藩祖利治治世の承応元年（1652）に 223 人、2 代利明治世の延宝 2 年（1674）に 219 人、11 代利平治世の天保 15 年（1844）に 278 人でした。



- 34 大聖寺藩主2代前田利明は、万治3年（1660）に越中新川郡の目川・上野・八幡・入善村など7か村と加賀能美郡の馬場・島・串村など（ ）を交換した。
- ① 6か村    ② 7か村    ③ 8か村    ④ 9か村

正解は①です（正解率 28.6%） 『学習帳歴史改訂版』 32 頁

大聖寺藩主2代前田利明は、万治3年（1660）に越中新川郡の目川・上野・八幡・入膳・道市・青木・君島村など7か村（4322石余）と加賀能美郡の馬場・島・串・日末・松崎・佐美村など6か村（4302）を交換しました。これ以降、大聖寺藩領は江沼郡全域のほか能美郡6か村を加えたものとなりました。能美郡6か村は後に島から蓑輪、串から串出・串茶屋、松崎から村松、佐美から浜佐美が分村して11か村になりました。

- 35 大聖寺藩は、加賀藩と同様に藩の専売制である「塩手米制」により塩を生産した。江戸後期には塩の生産が（ ）・篠原新・浜佐美の3か村に減少し、天保元年（1830）頃には「塩役制」へ移行した。
- ① 塩屋    ② 橋立    ③ 黒崎    ④ 伊切

正解は④です（正解率 29.2%） 『学習帳歴史改訂版』 44 頁

大聖寺藩も、加賀藩と同様に藩の専売制である「塩手米制」により塩を生産しました。江戸後期には「土産塩」と称する他領産の塩が移入され、領内産の塩価格が下落して製塩村が伊切・篠原新・浜佐美の3か村に減少し、天保元年（1830）頃には「塩役制」へ移行しました。江戸後期までは、片野・中浜（上木出村）・小塩・塩浜・塩屋などの村々でも塩を生産しました。

- 36 大聖寺藩主2代前田利明は、寛文期（1661～72）に山城（京都府）・近江（滋賀県）両国から茶の実を購入し、領内の村々へ配分した。江戸後期には（ ）村が宇治茶の製法を導入し、領内第一の生産地となった。
- ① 山代    ② 片山津    ③ 保賀    ④ 打越

正解は④です（正解率 72.4%） 『学習帳歴史改訂版』 44 頁

大聖寺藩主2代前田利明は、寛文期（1661～72）に山城（京都府）・近江（滋賀県）両国から茶の実を購入し、領内の村々へ配分しました。茶役は江戸後期まで串村が最も多く、領内第一の生産地でした。串村甚四郎は代々大聖寺藩の茶問屋を務め、大聖寺町に下問屋2人を置いていました。打越村は弘化元年（1844）に宇治茶の製法を導入し、領内第一の生産地となりました。

- 37 大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年（1676）に（ ）村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させた。
- ① 中田    ② 長谷田    ③ 塚谷    ④ 上原

正解は①です（正解率 13.5%） 『学習帳歴史改訂版』 44 頁

大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年（1676）に中田村五郎兵衛と足軽の栗村茂右衛門を河北郡二俣村に派遣し、御料紙や日常紙の製法を習得させました。日常紙は「紙屋谷」と呼ばれた中田・長谷田・上原・塚谷など4か村（土谷村を加え5か村）で、また御前延紙・銭手形紙など御料紙は中田村の角屋家と大茂谷家で製造されました。

- 38 大聖寺藩主は、参勤交代で下街道を通行する際、必ず金沢城下に宿泊して金沢城へ出向き、藩主や重臣に挨拶するとともに宝円寺（金沢前田家の菩提寺）や（ ）を参詣した。
- ① 芳春院    ② 玉泉寺    ③ 長国寺    ④ 天徳院



正解は④です (正解率 70.3%) 『学習帳歴史改訂版』36頁

大聖寺藩主の参勤交代には、金沢方面へ向かう中山道経由の下街道(131里)と福井方面へ向かう中山道経由の上街道(148里)、東海道経由の上街道(139里)の3コースがありました。下街道は距離が短いこと、全行程のうち加賀藩領が4分の1を占めていたことから最も多く利用されました。大聖寺藩主は下街道を通行する際、必ず金沢城下の旅籠に宿泊して、金沢城へ出向き重臣に挨拶するとともに宝円寺(金沢前田家の菩提寺)や天徳院を参詣しました。

39 大聖寺藩主の在任期間は、5代前田利直の42か年や2代前田利明の33か年を除けば、短期間の藩主が多かった。とくに、13代前田利行の在任期間はわずか( )であった。

- ① 5か月 ② 7か月 ③ 9か月 ④ 11か月

正解は①です (正解率 50.8%) 『学習帳歴史改訂版』34頁

大聖寺藩主の在任期間は、藩祖利治が22年、2代利明が33年、3代利直が19年、4代利章が27年、5代利直が42年、6代利精が5年、7代利物が7年、8代利考が18年、9代利之が31年、10代利極が2年、11代利平が12年、12代利義が7年、13代利行が5年、14代利鬯が15年でした。また、襲封年齢は、5代利直が5歳、8代利考が10歳、11代利平が16歳、12代利義が17歳、14代利鬯が15歳でした。

40 加賀藩主3代前田利常の夫人天徳院は、元和5年(1619)に「蒔絵角赤手篋」(婚礼調度品)を敷地の菅生石部神社に寄進した。天徳院は将軍( )の娘珠姫のことである。

- ① 徳川家康 ② 徳川秀忠 ③ 徳川家光 ④ 徳川家綱

正解は②です (正解率 48.1%) 『学習帳自然民俗文化財改訂版』41頁

加賀藩主3代前田利常の夫人天徳院は、元和5年(1619)に「蒔絵角赤手篋」(漆芸品)を菅生石部神社の祭礼にあたり寄進しました。これは2代将軍徳川秀忠の2女珠姫が慶長3年(1601)に僅か3歳で利常に輿入れしたとき、婚礼調度品の一つとして持参したものと伝えられています。これは国指定文化財であり、現在は東京国立博物館に保管されています。

41 家老の村井主殿は、宝永6年(1709)に大聖寺藩主( )の意を受けて、小堀遠州の建築意匠を採り入れた茶席図をもとに川端御亭(現長流亭)を建造したといわれている。

- ① 前田利治 ② 前田利明 ③ 前田利直 ④ 前田利章

正解は③です (正解率 37.8%) 『学習帳自然民俗文化財改訂版』40頁

家老の村井主殿は、宝永6年(1709)に大聖寺藩3代前田利直の意を受けて、小堀遠州作成の茶席図をもとに川端御亭(現長流亭)を建造したといわれています。侘びと雅が融合した大胆な意匠と細部にまで入念に施された装飾は、江戸期の加賀・大聖寺両藩の文化水準と工芸技術の高さを今に伝えるものとして、高い評価を得ています。

42 大聖寺藩による参勤交代は合計で( )回行われている。2019年にはこの参勤交代を再現する「加州大聖寺藩参勤交代うおーく2019」が開催されることになっている。

- ① 111 ② 151 ③ 181 ④ 201

正解は③です (正解率 65.9%) 『学習帳歴史改訂版』36頁

大聖寺藩の参勤交代は、江戸に行く参勤(89例)と国元へ帰る交代(92例)があり、計181回行なわれたことが記録から判明しています。行列の人数はおおよそ250~300人程度が多く、そのコースには金沢方面へ向かう中山道経由の下街道(131里)と福井方面から中山道経由の上街道(148里)、東海道経由の上街道(139里)の3つがありましたが、そのほとんどは距離が短く、また、加賀藩領域を多く通る下街道コースが利用されました。

43 大聖寺関所の柵門は、明治2年(1869)に関所が廃止されたとき、家老生駒一彦の口利きで( )の境内に移された。現在は、柵門に瓦葺の屋根がついている。  
①久法寺 ②全昌寺 ③実性院 ④宗寿寺

正解は④です (正解率 44.3%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』59頁

大聖寺関所は、寛永16年(1639)の大聖寺藩創設以前に加賀藩によって大聖寺城下町の西端(現在の大聖寺関町)に設置されていました。藩創設後は大聖寺藩が関所を管理しました。この柵門は明治2年(1869)に関所が廃止されたとき、家老生駒一彦の口利きで宗寿寺の境内に移されました。現在は、柵門に瓦葺の屋根がついています。

44 大聖寺西端の錦城山には、南北朝時代から元和元年(1615)まで数度に亘って大聖寺城が設置された。大聖寺城が歴史に登場するのは、南北朝時代の( )が初見である。  
①平家物語 ②太平記 ③源氏物語 ④源平盛衰記

正解は②です (正解率 85.4%) 『学習帳自然・民俗・文化財編改訂版』54頁

大聖寺西端の錦城山には、南北朝時代から元和元年(1615)まで数度に亘って大聖寺城(津葉城を含む)が設置されてきました。大聖寺城が歴史に登場するのは、南北朝時代の『太平記』が初見です。その後、一向一揆勢の土豪、織田信長の家臣、羽柴秀吉の陪臣溝口秀勝、小早川秀秋の家老山口宗永、加賀藩主2代前田利長の家臣(大聖寺城代)などの武将が統治しました。大聖寺城跡は、織豊時代の城郭を知る貴重なものとなっています。

45 大聖寺藩は、幕府や諸藩と同様に江戸前期から儒学を学ぶ儒者を多く輩出した。なかでも、大聖寺藩医榎田幻覚の7男( )は、江戸で儒教の古典籍について記した九経談を出版するなど活躍した。  
①新井白石 ②頼山陽 ③荻生徂徠 ④大田錦城

正解は④です (正解率 82.7%) 『学習帳産業人物編』28頁

大聖寺藩は、幕府や諸藩と同様に江戸前期から儒学を学ぶ儒者を多く輩出した。なかでも、大聖寺藩医榎田幻覚の7男大田錦城は、江戸で儒教の古典の論語などを記した『九経談』(全10巻)、東アジア各国の国名や地名をまとめた『海外諸国名録』(全1巻)、漢籍や詩について書き留めた『柳橋日録』など全143冊を著し大活躍しました。

46 明治3年、大聖寺藩は50人の浦上キリシタンを預かり、大聖寺( )の長屋に収容した。  
①庄兵衛谷 ②穴虫 ③木呂場 ④法華坊

正解は①です (正解率 30.8%) 『学習帳歴史改訂版』51 頁

明治政府は、神道国家を進めるためにキリスト教の国内布教を認めず、旧幕府同様の禁圧政策をとり、明治元年(1868)4月に長崎浦上の信徒 3300 人余りを全国 20 の諸藩に分けて配流することを決定しました。大聖寺藩では、50 人のキリシタンを預かり、同 3 年(1870)1月に、大聖寺庄兵衛谷の鉄砲場の長屋に収容しました。

47 明治 36 年、新家熊吉は従業員 15 名で自転車の木製リムをつくるために、( ) を創業した。

- ①新家工業 ②新家組 ③新家總業 ④新家商会

正解は④です (正解率 81.6%) 『学習帳歴史改訂版』54 頁

明治 36 年(1903)に、新家熊吉は自転車の木製リムを製造するための「新家商会」をつくりました。その後、新家商会は、木製リムや鉄製リムの製造において日本を代表する会社となりました。この新家商会がもとになり、現在の大同工業株式会社へと発展したのです。

48 明治 44 年、電力の必要性をいち早く感じていた( ) たちにより大聖寺川水力発電所がつくられた。

- ①旅館主 ②機業家 ③北前船主 ④漆器業者

正解は③です (正解率 83.8%) 『学習帳歴史改訂版』54 頁

大阪や函館などを行き来して、電力の必要性をいち早く感じていた橋立や瀬越の北前船主たちは、明治 44 年に、多額の資金を出し合って「大聖寺川水力発電株式会社」を創立しました。

49 江沼郡における最初の本格的な銀行として開業した八十四銀行は、世界恐慌や大聖寺の織物業の不振などで休業し、1928 年、あらたに( ) 銀行として再生した。

- ①明治 ②大正 ③昭和 ④平成

正解は③です (正解率 51.9%) 『学習帳歴史改訂版』56 頁

八十四銀行は、関東大震災や世界恐慌の影響を受けて、昭和 2 年(1927)3月に突然の休業に入りました。その後、しばらく営業再開の目途はたちませんでした。昭和 3 年、いくつかの休業銀行を整理統合した昭和銀行をあらたに設立することで決着しました。

50 大聖寺山ノ下寺院群の( ) には、明治期、鉛筆製造に尽力した柿沢理平の墓がある。

- ①蓮光寺 ②久法寺 ③正覚寺 ④本光寺

正解は②です (正解率 22.2%) 『学習帳歴史改訂版』52 頁

明治 10 年(1877)、旧藩士飛鳥井清は、柿沢理平を工場長にして「加州松島社」という鉛筆の製造会社を創設しました。理平はその後、舶来品に劣らない良質の鉛筆を作り出すことに成功しました。久法寺には鉛筆製造に生涯を捧げた柿沢理平の墓があり、その戒名には「制鉛院造筆日肇居士」と刻まれています。

51 昭和 23 年 6 月 28 日、福井県坂井郡丸岡町付近を震源とする大地震が発生し、江沼郡でも( ) 名の死者が出た。

- ①19 ②39 ③69 ④89



正解は②です (正解率 41.6%) 『学習帳歴史改訂版』62 頁

福井地震の規模はマグニチュード 7.1 でしたが、きわめて浅い直下型地震であったため、江沼郡内でも大きな被害がでました。特に福井に近い大聖寺や塩屋、三木などを中心に、死者 39 名、負傷者 451 名、住宅全壊 791 戸などの被害がありました。

52 大聖寺藩士 ( ) は、明治 2 年、琵琶湖の大津と海津間 64 km を結ぶ川蒸気船一番丸を就航させた。

- ①石川嶂 ②東方芝山 ③飛鳥井清 ④新家熊吉

正解は①です (正解率 78.4%) 『学習帳歴史改訂版』51 頁

大聖寺藩士の石川嶂は、明治 2 年に琵琶湖に川蒸気船一番丸を、続いて同年 10 月には二番丸を就航させました。これらに汽船は木造の外輪船で、大津と海津間、およそ 64 km を往復する日本最初の川蒸気船となりました。

53 加賀市の ( ) 町では、トマトなどを中心としたハウス栽培が盛んである。

- ①柴山 ②三谷 ③横北 ④作見

正解は①です (正解率 57.8%) 『学習帳産業人物編』7 頁

当市の柴山町では、ビニールハウスによる野菜の促成栽培が盛んに行われています。特にトマトは、大きく、味が濃く、品質のよいことで知られています。

54 昭和 45 年頃までは、( ) が、加賀市の基幹産業といわれていた。

- ①機械産業 ②観光業 ③繊維産業 ④漁業

正解は③です (正解率 66.5%) 『学習帳産業人物編』13 頁

昭和 45 年頃、加賀市の業種別工場数を見ると、繊維関係の工場がトップで、全体の 42% を占め、繊維産業は当時の加賀市における基幹産業といわれていました。しかし、その後は、中国や韓国から低価格の衣料が大量に輸入されるようになり、加賀市においても多くの企業が廃業に追い込まれました。

55 加賀市の機械産業を支えている企業には、農機具用部品の製造で国内のトップメーカーとして知られている ( ) がある。

- ①月星製作所 ②宮本産業 ③東野産業 ④江沼チェン製作所

正解は④です (正解率 36.2%) 『学習帳産業人物編』11 頁

市内では、大同工業(株)のほかにも当市の機械産業を支えている企業がいくつもあります。特に、昭和 16 年 (1941) に江沼合同製作所として創業した「(株) 江沼チェン製作所」(加賀市上河崎町) は農機具用チェーンの製造では国内のトップメーカーとして知られています。

## ■専門テーマ「芭蕉」

56 芭蕉が「奥の細道」の旅に出立したのは、( ) 2年のことであった。  
①寛永 ②慶安 ③寛文 ④元禄

正解は④です (正解率 58.4%) 『学習帳歴史編改訂版』45頁 『学習帳産業人物編』47頁

『奥の細道』は、芭蕉が元禄2年に、門人の河合曾良を伴って江戸を発ち、奥州、北陸道を巡った旅行記です。全行程約600里(2400キロメートル)、日数約150日間で東北・北陸を巡って、元禄4年に江戸に帰りました。

57 芭蕉が全昌寺に宿泊した時に次の句を残した。  
「庭掃いて 出でばや寺に 散る( )」  
①柳 ②桜 ③イチョウ ④紅葉

正解は①です (正解率 78.4%) 『学習帳歴史編改訂版』45頁 『学習帳産業人物編』47頁

元禄2年(1689)8月に、俳人松尾芭蕉が『奥の細道』の行脚の途中、大聖寺山ノ下寺院群の一つである全昌寺に泊まりました。このとき詠んだ句が「庭掃いて 出でばや寺に 散る柳」です。一泊したこの寺を出立しようとしたら、柳の枯葉が散っていた。1泊させていただいた恩義に、この落葉を掃き清めてから出立するとしようという意味だとされています。

58 芭蕉は山中温泉の次に、小松の那谷寺に立ち寄り、その後、弟子の( )に引き続き、大聖寺の全昌寺に宿泊した。  
①生駒万子 ②千代女 ③二宮木圭 ④曾良

正解は④です (正解率 79.5%) 『学習帳歴史編改訂版』45頁 『学習帳産業人物編』47頁

河合曾良は江戸時代中期の俳人で、信濃国(現在の長野県諏訪市)の生まれです。芭蕉の『奥の細道』では、奥州・北陸の旅に同行した俳人として知られています。江戸深川で芭蕉の近隣に居を構え、芭蕉とは朝夕なく行き来した間柄で、蕉門十哲の一人とされています。

59 芭蕉が泊まった山中温泉の泉屋の主人、久米之助は、芭蕉から( )と称する俳号をもらった。  
①杉風 ②桃妖 ③北枝 ④去来

正解は②です (正解率 81.6%) 『学習帳歴史編改訂版』45頁 『学習帳産業人物編』47頁

芭蕉が宿泊した山中温泉の泉屋の当主はまだ14歳の少年久米之助でした。芭蕉は弟子入りしたこの少年に自らの号である「桃青」の一字をとって「桃妖(とうよう)」という号を与えました。その後、桃妖は北枝とともに加賀俳壇の発展に寄与しました。

60 芭蕉の「山中や菊は手折らじ湯のにおい」という句は、山中の湯に浴すれば、中国の故事に登場する( )のように菊の露を飲む必要もないという意味である。  
①菊翁 ②菊寿老 ③菊慈童 ④菊仙人

正解は③です (正解率 57.8%) 『学習帳歴史編改訂版』45頁 『学習帳産業人物編』47頁

「菊は手折らじ」の意味は「山中の湯に浴せば、中国の菊滋童が集めた不老長寿の薬となる菊の露を飲むまでもない」という意味です。なお、菊滋童とは中国の故事に登場する少年で、菊の花から滴る露を飲んで700歳あまりまで生きたといわれています。